

奈良県斑鳩町鏡塚古墳群測量調査報告

豊島直博・上野喜則・行天就要・松木研太・水川慶紀

1. 調査の経緯

奈良大学文学部文化財学科は斑鳩町教育委員会と協力し、斑鳩地域における古墳の調査研究に取り組んでいる。これまで斑鳩大塚古墳、寺山古墳群、寺山北古墳群、甲塚古墳、亀塚古墳、戸垣山古墳、梵天山古墳群、神代古墳の測量調査、斑鳩大塚古墳、甲塚古墳、戸垣山古墳、舟塚古墳の発掘調査を行い、斑鳩における首長系譜の解明に努めてきた。2022年度は斑鳩町の北部、法隆寺の北約0.5kmに位置する鏡塚古墳群の測量調査を行ったので、その成果を報告する。

鏡塚古墳群は斑鳩町東里字極楽寺に所在する。かつて鏡が出土したという伝承があり、墳丘上に「鏡塚伝承地」の標柱が立っている。いっぽう、鏡塚の南方約50mにも古墳上の高まりがあり、墳丘上に「お通夜塚」の標柱が残されているが、由来は明らかではない。斑鳩町遺跡地図では2基の古墳群で、いずれも直径10mの円墳とされている（斑鳩町教育委員会1995）。これまでに調査されたことはない。

なお、本報告は教員の豊島直博、学生の上野喜則、行天就要、松木研太、水川慶紀が分担で執筆した。担当部分は文末に記す。（豊島直博）

2. 周辺の古墳（図1）

報告の前に、周辺の古墳を概観しておきたい。

鏡塚古墳群の西北約300mに仏塚古墳（5）がある。一辺約23mの方墳で、両袖式の横穴式石室をもつ。石室内から須恵器や亀甲形陶棺片が出土しており、築造時期は後期末頃である（河上・関川1977）。

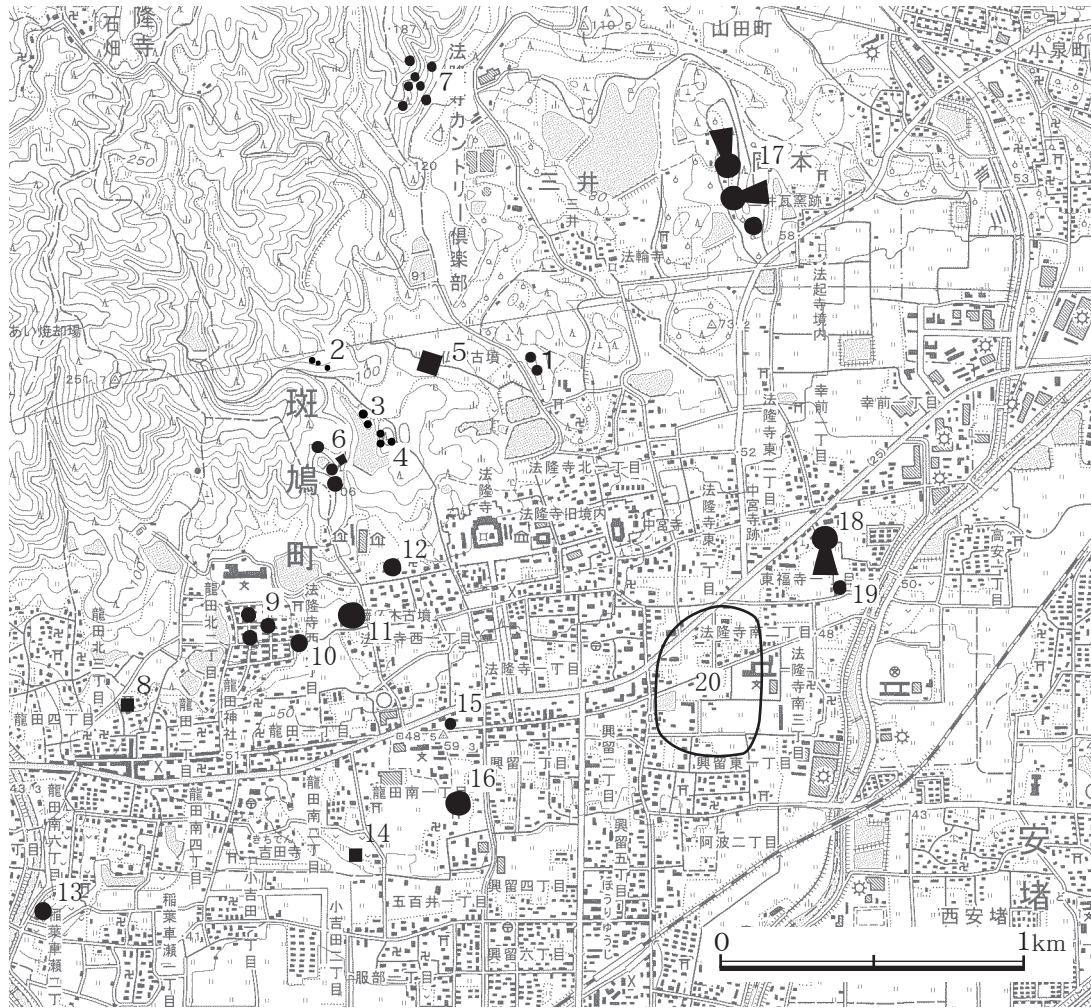
仏塚古墳の西には慶花池古墳群（3）がある。池の水際に2基の古墳があり、南東側の1号墳は直径16mの円墳で、北東に開口する横穴式石室の一部が残存する（大西2000）。

慶花池古墳群の南東尾根上には梵天山古墳群（4）がある。2018年に奈良大学が測量調査を行い、12～15mの円墳3基で構成される初期群集墳であることが判明した（豊島2019）。

梵天山古墳群の西方尾根上には寺山古墳群（6）がある。2014～2015年に奈良大学が測量調査を行った。1号墳は直径23mの円墳か全長30mの前方後円墳、2号墳は20×15mの円墳、3号墳は19×13mの方墳、4号墳は16×14mの円墳と考えられる初期群集墳である（河村・高左右・豊島2015、間所・宮畑・豊島2016）。

寺山古墳群の北方尾根上には寺山北古墳群（2）がある。最も東にある1号墳は約16×12mの円墳である。西方約100mにある2号墳は約8.5×6mの円墳、西隣の3号墳は12×10mの円墳である。いずれも木棺直葬の埋葬施設をもつ初期群集墳と考えられる（豊島・松島・小林・高井2022）。

以上のように、法隆寺の北方では、まず丘陵上に寺山古墳群や梵天山古墳群などの初期群集墳が築造される。つぎに、平地部に慶花池古墳群や仏塚古墳など、横穴式石室をもつ後期古墳が築造されることがわかる。



- 1 鏡塚古墳群 2 寺山北古墳群 3 慶花池古墳群 4 梵天山古墳群 5 仏塚古墳 6 寺山古墳群
- 7 三井古墳群 8 神代古墳 9 竜田御坊山古墳群 10 甲塚古墳 11 藤ノ木古墳 12 春日古墳
- 13 稲葉車瀬古墳群 14 戸垣山古墳 15 亀塚古墳 16 斑鳩大塚古墳 17 瓦塚古墳群 18 駒塚古墳
- 19 調子丸古墳 20 酒ノ免遺跡

図1 斑鳩町内古墳時代遺跡分布図 1：25,000

3. 調査の経過

今回の測量調査は2022年8月18日から8月23日まで、雨天を除く5日間で行った。基準点測量は梵天山古墳群の測量調査の際、慶花池の東側に設置した仮設点と、そこから仏塚古墳までの中間に設置した仮設点を使用し、古墳群付近に新たに設置した杭まで開放トラバースで移動した。さらに各古墳の周辺に杭を設置し、平板測量を行った。調査参加者は下記のとおりである。

豊島直博（文学部教員）、谷野誠也（大学院1回生）、飯田明日香、郷田美宇、高井秀樹（以上、文学部4回生）、上野喜則、木村和生、行天就要、松田青空、水川慶紀、森川寧々（以上、文学部3回生）、池本優衣、植木実果子、森田将圭（以上、文学部2回生）。

調査に当たっては、土地所有者である極楽寺墓地管理組合、斑鳩町教育委員会平田政彦氏と荒木浩司氏の全面的な協力を賜った。また、松島隆介氏、金田将徳氏、松井成之氏、中田孝子氏のご援助を得た。記して感謝申し上げる。

（豊島）



1. レベル移動



2. 平板測量 (1・2号墳)



3. 1・2号墳の現状 (南から)



4. 3号墳の現状 (北から)

図2 調査の様子と古墳の現状

4. 調査の成果

鏡塚古墳群は法隆寺の北方にある低丘陵の尾根上に立地する。古墳は標高約82～84mに位置し、平野部との比高差は約12～14mである。周辺は極楽寺墓地となっており、階段状に造成されている。当初は尾根の北側にある古墳を1号墳（鏡塚）、南側の古墳を2号墳（お通夜塚）と呼称して測量を行ったが、調査の結果、1号墳は2基の円墳である可能性が高まったので、1・2号墳（鏡塚）、3号墳（お通夜塚）と呼称し、以下に報告する。

(1) 1・2号墳 (図3)

先述したとおり、鏡塚は1基の古墳であると考えて測量調査を行った。しかし、調査の結果、2基の円墳である可能性が高まったので、北側の高まりを1号墳、南側の高まりを2号墳と呼んで報告する。以下では北から順に測量の成果を述べる。

1号墳では、標高84.4m以上の等高線が整った円弧を描く。墳丘の北側と東側は墓地の造成によって削平され、墳端が破壊されていると考えられる。標高84.2mの等高線は墳丘北側と西側で円弧を描き、その付近が墳端であると考えられる。その場合、1号墳の直径は約8m、高さは約1mとなる。

2号墳では、標高84.4m以上の等高線が整った円弧を描く。また、標高84.2mの等高線が1号墳との境界をなす鞍部となる。標高84.0mの等高線も墳丘西側では円弧を描き、その付近が墳端となる可能性がある。

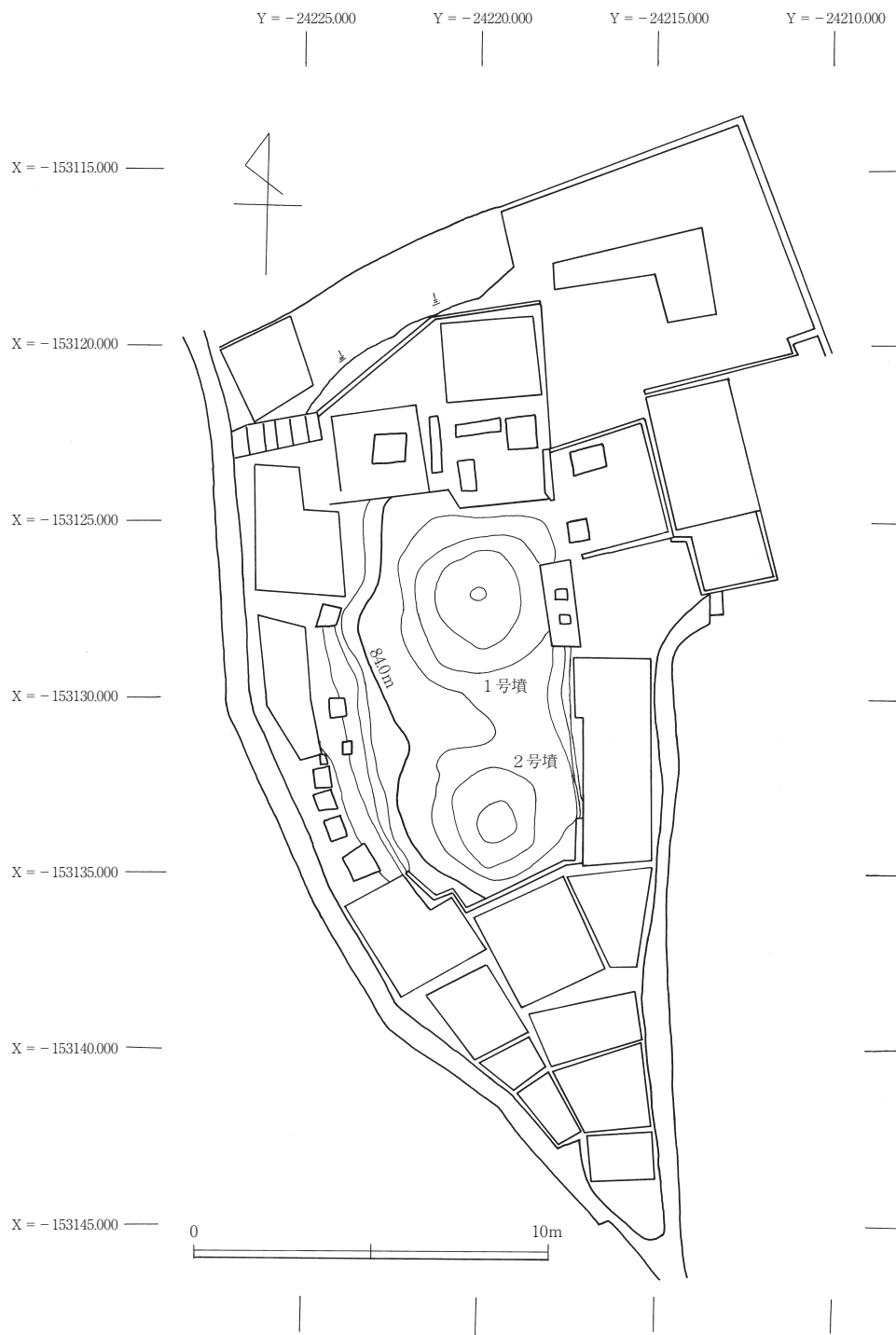


図3 1・2号墳墳丘測量図 1:200

墳丘東側は大きく削平されているが、2号墳は直径約7m、高さ約0.8mの円墳に復元できる。なお、1・2号墳とも石室の石材等は認められない。

(2) 3号墳 (図4)

3号墳は1・2号墳から約50m南に位置する。墳丘南側は墓地の造成によって削平され、墳丘北側のみが残存する。墳端はコンクリートブロックによる護岸と地覆石に囲まれている。

標高82.0mから82.4mまで、3本の等高線を記入することができた。墳丘北側は等高線にやや乱れが認め

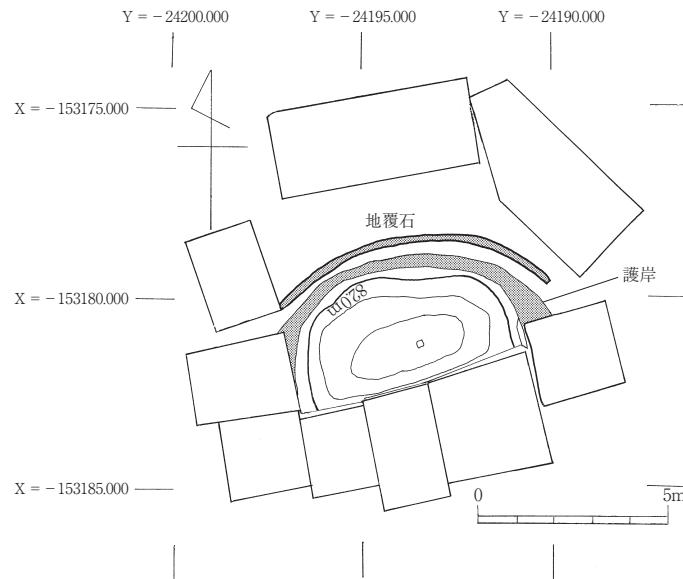


図4 3号墳墳丘測量図 1:200

られ、墳丘の崩落が推定される。護岸の外側を墳端と想定した場合、直径約8mの円墳に復元できる。墳丘の高さは地覆石の上面から想定した場合、約1.2mとなる。3号墳にも石室の石材等は認められない。

(水川慶紀・行天就要)

5. まとめ

最後に、今回の調査成果をまとめたい。

鏡塚古墳群は矢田丘陵の南部、法隆寺の北方約0.5kmに位置する古墳群である。尾根上に3基の古墳が分布する。最も北にある1号墳は直径約8mの円墳、南隣の2号墳は直径約7mの円墳、南方約50mにある3号墳は直径約8mの円墳と考えられる。いずれも木棺直葬の埋葬施設をもつ初期群集墳と考えられる。

これまでの測量調査によって、法隆寺の北方には寺山古墳群、梵天山古墳群などの初期群集墳が築造されることが明らかにされている。鏡塚古墳群もその1つに位置づけられる。ただし、いずれも墳丘が低く、古墳であるという確証を得るには至らない。今後は発掘調査が必要である。

(豊島)

参考文献

- 斑鳩町教育委員会 1995『斑鳩町遺跡地図』斑鳩町教育委員会
 大西貴夫 2000「奈良県斑鳩町慶花池古墳群調査報告書」『奈良県遺跡調査概報』1999年度 奈良県教育委員会
 河上邦彦・関川尚功 1977『斑鳩・仏塚古墳』斑鳩町教育委員会
 河村萬里・高左右裕・豊島直博 2015「奈良県斑鳩町寺山古墳群測量調査報告」『文化財学報』第33集 奈良大学文学部文化財学科
 豊島直博 2019「奈良県斑鳩町梵天山古墳群測量調査報告」『文化財学報』第37集 奈良大学文学部文化財学科
 豊島直博・松島隆介・小林友佳・高井秀樹 2022「奈良県斑鳩町寺山北古墳群測量調査報告」『文化財学報』第39集 奈良大学文学部文化財学科
 間所克仁・宮畑勇希・豊島直博 2016「奈良県斑鳩町寺山3・4号墳測量調査報告」『文化財学報』第34集 奈良大学文学部文化財学科

挿図出典

- 図1 豊島作成 図2 豊島作成 図3 上野製図 図4 行天製図